

43年15 藤井 謙治(教員)

44年15 協議員 志見 吾沢(教員) 幹事

早稲田大学理工学部

昭和43年

9月15日

第4号 資源工学会々報

発行

資源工学会・役員決定

会報第3号で予告いたしておりました通り当資源工学会役員の人選、互選(会長は資源工学科学科主任, 副会長, 評議員, 監事は会長委任, 幹事は資源工学科在職教員および在学生より互選, 会則: 第19~第23条参照)をおこないました結果、いずれも異議なく御承認を得ましたので、ここに発表させていただきます。

なお副会長, 評議員, 監事の人選にあたりましては、東京およびその近郊在住者を第一条件としました。あらかじめ御諒承下さい。

また()内記号および数字は卒業年次を示し、T=大正, S=昭和, の如くです。在学生幹事氏名は一部省略しました。

- 会長・伏見 弘(S13)
- 副会長・若林章治(S6) 岩沢 栄(S7)
- 松岡 新(S12) 吉沢兵左(S25) 計4名
- 評議員・塩沢正一(T5) 三宅当時(T6)
- 小笠原千代治(T12) 大溝友吉(S3)
- 山本伊勢雄(S6) 河村永一(S12)
- 下山晃策(S13) 田村 元(S14)
- 中井 裕(S15) 谷 昌博(S16)
- 鈴木茂次(S17) 朝熊利彦(S18)
- 富岡唯一(S19) 鈴木利雄(S21)
- 宮 輝雄(S22) 織田忠旻(S23)
- 従野陸秀(S24) 今井 明(S25)
- 瓜生敬一郎(S26) 新館辰弥(S26)
- 酒向茂夫(S27) 田中敏夫(S28)
- 湯本治文(S29) 小島 齐(S30)
- 相沢則之(S31) 中岡 孝(S32)
- 岡村周良(S33) 鈴木浩之(S34)
- 大井正敏(S35) 吉村省三(S36)

- ◀ 松岡 徹(S37) 五十石 清(S38)
- ◀ 並木博治(S39) 近藤親司(S40)
- ◀ 岸田 勝(S41) 大関彰一郎(S42)
- ◀ 戸田竹男(S43) 金井義正(S22専)
- ◀ 森田三之(S23専) 計40名

- 幹事・萩原義一(S19) 原田種臣(S25)
- 岩崎 孝(S28) 小川博次(4年度生)
- 小林直樹(4年度生) 緑川 宏(4年度生)
- 以下第3年度生, 第2年度生, 第1年度生, 各2名(氏名略) 計12名

- 監事・本川忠寿(S11) 中浜淳伸(S20) 計2名

なお、本年度に限り在学生幹事は9名、すなわち第4年度生幹事は3名といたしました。これは、来年度が採や創設60年にあたりますので、その準備の都合上特に1名の増員を致したものです。この点もあらかじめ御諒承下さい。

砂と山と太陽と

—アフリカ縦断登山隊員の手記—

久富征夫

<その2>

サハラを越えて

モロッコから帰って、いよいよサハラ砂漠出発の準備にとりかかった。そうしたある日、在京のアフリカ委員会から、サハラ縦断は危険につき中止したらどうか、という手紙がとどいた。私達は情報を集め、サハラ砂漠3千キロドライブ成功の裏付けをおこなわねばならなかった。国産車で日本人が運転して、サハラ砂漠を越えたことはまだなかったのである。

1年前、ドイツの学生数人が縦断しようとして途中で道に迷い、全員死亡したという記

事が、「マッチ」というフランスの雑誌に載っていた。水がなくなれば1日で人間のヒモノができるというサハラ砂漠、不安は隠し切れなかった。しかし、多方面から情報を得た結果、充分できるという確信を得たのである。政府のサハラ開発機関であるサハラ機構の親切な指示は、更に私達を勇気づけてくれた。水とガソリンを合せると、200リットルのドラムカン4本分になる。これが我々の生命ともなるのだ。

砂漠の中央にタマンラセットというオアシスの町がある。ここまで若し私達が予定までに着かなかった時には、偵察機が飛んでくれることになった。問題は、その先、タマンラセットからニジェールのアガデスまでの900Kmである。地図をみると砂が多く、道は悪い。12月9日、サハラ砂漠の通過可能な冬になり、大使夫妻に見送られて、いよいよ出発の途についた。

12月10日、寄り道をしてハツシルメルメルのガス田を見にゆく。舗装道路からはずれて28Km地点、地平線に煙がみえ始めてきた。ひたすら砂漠を煙の方角に走る。夕日が落ちる頃、3本の赤い炎が暮れゆく空を焦す油田地帯に着いた。

周囲はただ地平線のみ。この工場では150人ほどの人間が働いている。そのうちトップクラスの10人がフランス人であった。ヤグラは5本、オランの近くの港まで約800Kmもパイプラインが延びている。掘れば掘るほど出るが、需要が少ないので掘らないという。

ガルダイヤ経由、エル・ゴレアに向かう。

12月12日、本隊と別れて3名でエル・ゴレアの町を見物、撮影する。ナツメヤシの茂るオアシスの近くに小高い丘がある。その上にフランス軍の侵略で全滅したベルベル人の廢墟があった。ハチの巣のように小さな室が迷路でつながり、丘の上部が全体として要塞になっている。約3000Km離れたアトラスの山のふもとでみた彼等の家とよく似てはいる

が、よくみると泥で固めた壁に何か白い斑点がある。何とそれは貝の化石であった。海岸から900Kmも離れたここに化石があるとは!!。

昼食をたべに近くにある湖に行く。湖は塩水で、湖の周囲は1cmほどの厚さの層になった塩で真白だった。

サハラ砂漠は古生代以降第三紀の初めに至るまで、数回の海進海退を繰返した。この地方にサハラ・ローズというバラの花のような結晶をした鉱物が産出するが、これも海進海退と何か関係があるのではないだろうか。

12月13日、先行している本隊に追い着くため、420Km先のインサラへ急ぐ。ここから道は舗装がなくなった。どこを走ってもいいような道だ。今日の行動は長い。出発の時から、今日は夜も走らねばならぬと思った。

サハラ砂漠を夜走るのは危険である、とサハラ機構、その他でよく耳にしていた。地平線に夕日が沈むのを右にみながら、ガタガタ道を時速60~80Kmでとばす。インサラまであと60Kmという地点で、急に砂地が増え6時半、ついに深い深い砂の中に車を突込んでしまった。空は満天の星。星ってこんなに多かったかな。エンジンを切ると世界から音が消え、まさに地の果に來た感じがする。—そんなロマンチックな事を考えている場合ではなかった—脱出しなれば。

車の通ったワダチは方々にある。懐中電灯で、どのワダチが走れるか探した。しかし懐中電灯の淡い光では所詮無理な話である。全輪駆動のランドクルーザーも、デフがつかえてはひっくり返った亀と同じである。本隊がスコップやサンドマット(砂地に敷いて車輪を通過させるもので、長さ約3m、重さ20Kgくらいの穴のあいた鉄板)を持っていてしまっている。石を拾ってきては車の下に置き砂をナベで掻出す。しかし車は矢鱈と砂をひっ掻き、更に深く沈んでゆく。クラッチ板の焼ける臭い。朝になるまで待たう、待たない

で口論。100 mほど離れたところに誰か立っているという。ライトの淡い光の中に、確かに誰かいるようだ。1時間、2時間……動こうともしない。声を掛けたが返事も無い。不気味だ。こんな所でエンコではどうなることか。あせるな、あせるな、冷静、そう、冷静に状況を考え直そう。

車の荷物を全部外に出して、やっと脱出できたのはもう9時を廻っていた。そしてインサラで本隊と合流したのは11時、遅い夕食にやっとありついた頃、我々は助かったという実感をしみじみと噛みしめていた。

— インサラは砂の中の町であった。サハラ砂漠はエルグと呼ばれる流砂地帯、レグと呼ばれる礫地帯、それにハマダと呼ばれる巨岩地帯に分類され、道路は殆んど礫地帯を走っている。そしてその大部分はピストと呼ばれる洗たく板のようなガタガタ道なのだ。

12月15日、朝出発してまもなく隊長、運転、その他2名が乗ったランドクルーザが砂にハンドルを取られて横転、一回転してしまった。トラックで先行していた私達は、1時間程待っても来ないので引返してみると、砂の中に入ったランドクルーザを見つけた。すでに通り掛りの車の方で起き直ってはいたがフロントガラスにヒビが入り、おまけに車体はガタガタ。一時は遠征もこれで終わりかと思った。幸いエンジンは大丈夫のようである。私が代って運転する。一回転して火も出さずケガ人も出なかったということは、本当に幸運だった。

タマンラセットまで200 Kmの地点で幕営する。砂漠に入ってから雨もなく、物を盗まれる心配もないので、荷物は出しっぱなし、各自好きな場所を選んでシュラフにもぐり込んでいる。砂の上に寝る者もいれば、トラックの上で満天の星空を見ながら、「月の砂漠」の夢を見た者もいたことだろう。

— タマンラセットに着いてからは、毎日ランドクルーザの修理に追われた。無事サハ

ラの山・タハト山(海拔3003m)の登頂も終え、ランドクルーザも、どうやら窓がしまるまでに修理が進んだ。

ここで発見したことを1つ。— この辺りの国々は殆んど回教国である。回教徒は日に5回お祈りする。砂の上にくずくまり、しばらく動かない姿をしばしば見てきたのであるが、この格恰はお祈りだけに用いられているのではないことがわかった。すなわち、用便の時がそれである。彼等のアップパーのような服は、実にこの場合便利なものだ。唯しゃがんだだけでどこでもOK。万事滞りなく終ったら、足で砂をかけておけば、固体、液体およびその混合体はいずれも再び自然に戻るのである。

一方、町のホテルにはちゃんとした西洋式便器がある。しかし現地の人紙を使わない。水の入った1升ビンを持ってその個室に入ってゆく。そして中でどうするかわからないが兎に角、出て来た時、ビンの水はなくなっていた。

12月25日、タマンラセットを出発して2日目、初めのうちは快適に走ったが、やがて砂地が現われる。砂に埋まること数回、サンドマットを使って突破する。今日中に国境を通過してニジェルに入らないと、ニジェルのビザが切れてしまう。目標の無人の1軒屋をすぎて、国境手前80 Kmのところ悪路に入り込んでしまった。

はてしなく続く砂の海、その中にトラックが立往生してしまったのだ。ケルンに従いがいサンドマットを敷きながら岩のあるところまで来たのはよかったが、岩はほんの一部分で前後は再び砂また砂。3 m走っては沈没、5 m行っってはエンコ、果しない砂の海に取り残され、急に心細くなってきた。この調子では一体何日かかるだろう。全輪駆動のランドクルーザは道探しに右往左往する。— そうだ、このあたりから迂回して南下するルートがあるとの情報を思い出した。

2時間位い経ってやっとその道を発見、ルートは南東にとった。そしてしばらくは良かった。一度サンドマットを使えば、大底は脱出に成功した。しかし夕闇が迫り夜がくるともうだめだった。やたらと砂に突込み、みんなの力もだんだんなくなってきた。車のワダチの少ない方へ入り込んでしまったのだ。辺りは真暗、右へ左へとランドクルーザだけが気狂いのように走り回る。

1時間、2時間、時がむなしく流れる。ない。もう一度来た道を引返してみることにする。待つこと更に1時間、車のライトが2つ見えた。1台はランドクルーザ、そしてもう1台は黄色のライト——現地人の車だ。助かった。今日見た初めての車だ。

やがて20トン級の砂漠のオオカミ(大型トラック)がやって来た。その車に先導して貰うことになった。私達はルートからまっ

たく外れていることを知らされた。今日はこの所で幕営、もう夜中の1時を回っていた。

——国境に近づくにつれて道はだんだんと良くなってきた。砂漠のオオカミも時々砂地にもぐり、サンドマットを使っている。どうやら我々だけではないようだ。

無事国境を通過してニジェールの大きな町アガデスに着くまで、砂漠のオオカミに先行してもらった。心配していたビザの期限切れも、見のがしてくれた。いよいよこれから、アラブ人の国から黒人の世界に足を踏み込んだのである。

ナイジェリアの国境も、日本人と解ると簡単に通して呉れた。南に下るにつれ、草や木は、次第にその数を増していった。

ナイジェリアの北部州都カノに着いたのは、年もおしせまった12月30日であった。

名簿の訂正，変更等

昭和43年8月31日現在で判明いたしました名簿中の誤植，勤務先，現住所等の変更状況をお知らせいたします。また編集上の手落で，2，3の会員氏名，現住所などが脱落しておりました。つつしんでお詫び致します。

氏名	誤植，変更，訂正，追加部分	備考
〔あ〕		
✓阿澄 一昌(S37資)	三菱商事株 千代田区丸の内2-20	勤務先同住所訂正
✓阿部 忠美(S24専)	阿部(忠美)雄次 足利市家富町2183	改名，現住所判明
✓青木 弘(S20採)	三菱金属鉱業株細倉鉱業所 宮城県栗原郡鷲沢町細倉	勤務先変更 勤務先住所変更
✓赤石 孝夫(S40資)	東京産業高円寺寮	現住所末尾に追加
✓朝枝 英太郎(S40資)	徳山曹達株ポリプロ事業部 徳山市御影町1-1 徳山市新堀徳山曹達雄心寮	勤務先，同住所変更， 現住所変更
✓朝熊 利彦(S18採)	神奈川県二宮町二宮団地北308	現住所変更
✓荒木(安井)真真(S16採)	中野区本町5-40-7	現住所地番変更
✓新井 雄三(S40資)	雄正 長岡市城岡2-11-11	三を正に訂正，勤務先住所訂正
✓有賀 文雄(S29鉱)	横浜市戸塚区戸塚町315	現住所変更
✓有賀 義人(S43資)	世田ヶ谷区梅ヶ丘2-4-6 関谷方	現住所判明
〔い〕		
岩田 徹夫(S22専)	名古屋市中種区仲田本通4-59	現住所変更

〔う〕

梅崎 興一郎(S40資) 長岡鋳業所 長岡市城岡 2-11-11 勤務先住所変更
 梅原 望(S26採) 市場開発部 横浜市保土ヶ谷区狩場町303 勤務先変更, 現住所判明
 (045)721-6011

〔え〕

海老原 一男(S22専) 草加市中央 2-9 公団住宅 11-3 現住所判明

〔お〕

小川(片山)本善(S25採) 相模原市大沼 3779 現住所変更
 小野 宏平(S24専) 青森県東津軽郡三厩村宇鉄 竜浜寮 現住所変更
 大沢 光雄(S22専) 新鋳業開発部 世田ヶ谷区烏山町烏山 勤務先訂正, 現住所判明
 S26採 北住宅 20-10 (309)5458
 大滝 新作(S17採) 転居先不明
 岡部 尚治(S18採) 転居先不明, 勤務先不変
 岡野 公彦(S41資) 世田ヶ谷区松原町 1-11-27 現住所変更

〔か〕

加島 武四郎(S19採) 日曹製鋼株式会社習志野工場 勤務先判明
 角岡 正(S31鋳) 小平市小川東町2800 BSアパートD11-308 現住所判明
 笠原 泰夫(S31鋳) 宇部興産株式会社蒔田工場 勤務先変更
 福岡県京都郡蒔田町尾倉近衛ヶ丘 3019 現住所変更
 閑蔵 弘通(S27鋳) 三菱電機株式会社大船製作所 勤務先訂正, 同住所判明
 鎌倉市大船 5-1-1 (0467)6-6111

〔き〕

岸本 勝利(T12採) 逝去
 北見 尹(S32鋳) 日立市宮田町本山奥掛橋アパート8号 現住所判明

〔く〕

久原 豪(S36鋳) 唐沢鋳山 栃木県安蘇郡葛生町朝日町 勤務先, 同住所変更
 栃木県安蘇郡葛生町中央西2-5-13 泉町アパート 現住所変更

黒川 良則(S42資) 太陽石油高田寮 現住所一部訂正
 黒柳 喬(S15採) 北区赤羽西 3-26-9 現住所判明

〔こ〕

小出 浩(S24採) 日本軽金属株式会社札幌事務所 勤務先変更
 札幌市南 20 西 12 藻岩マンション609 現住所変更
 小滝(中林)康明(S10採) 小滝(中林)康明 旧姓訂正
 小林 友千(S26採) 夕張市若菜 8 番地 現住所変更
 小林 勝治(S37資) 川口市芝堀代 1136 現住所判明
 小峰 和夫(S24専) 町田市鶴川 5-4-11-303 現住所変更

〔さ〕

佐々木 徹(S25専) 転居先不明
 佐藤 綏信(S40資) 世田ヶ谷区成城町 884 現住所判明
 斉藤(松田)中央(S24専) 東村山市野口町 2-1618 現住所番変更

坂本 竜文 (S37資)	西宮市松籟荘 26	現住所判明
桜庭 卓而 (S40資)	目黒区碑文谷 5-3-12	番地一部追加
笹倉 健一郎 (S20採)	白滝鉱業所 高知県土佐郡大川村	勤務先, 同住所変更
〔し〕		
白石 芳雄 (S12採)	光和精鉱 ^株 千代田区丸ノ内 1-1 鉄鋼ビル	勤務先変更
	武蔵野市吉祥寺南 3-23-10 (0422) 43-7900	現住所変更
篠原 靖幸 (S34鉱)	大阪府高槻市真上町 1-25	現住所変更
〔す〕		
須藤 恵師 (S36鉱)		転居先不明(勤務先不変)
菅原 清行 (T13採)		転居先不明
鈴木 英夫 (S36鉱)	「鈴木建史」「鈴木一郎」間に挿入	氏名脱落
末松 格次 (S43資)	千代田区大手町 2-2 野村ビル (231) 4551	勤務先住所判明
〔た〕		
田中(木島) 茂 (S34鉱)	神戸市灘区寺口町 1-2	現住所判明
高田 晃 (S22採)	高田 晃	晃を晃に訂正
高萩 富男 (S32鉱)	福島県いわき市常磐湯本湯台堂 103	現住所変更
滝波 武輝 (S40資)	南海神団地 1-404	現住所一部訂正
滝本文 男 (S22採)	大和市中央林間 6-10-3	現住所地番変更
滝 克彦 (S26鉱)	日鉄鉱業 ^株 大阪事務所 池田市住吉 1-294-1	勤務先変更 現住所変更
詫間 高夫 (S26鉱)	詫間 喬夫	高を喬に訂正
竹内 重夫 (S24採)	日鉄鉱山コンサルタント ^株 千代田区丸ノ内 2-20-1 (281) 0911	勤務先, 同住所変更
竹内 新吉 (S27鉱)	上北沢 5-50 住友アパート	現住所一部訂正
竹村 安弘 (S37資)	資源技術試験所	勤務先名一部誤植
橋 精三 (S16採)	橋 清三 富山県高岡市守山町 10	精を清に訂正 勤務先住所一部変更
玉手 弘 (S15採)	呉川町 48	現住所一部変更
〔つ〕		
柘植 方雄 (S36鉱)	保谷市柳沢 3-4 柳沢団地 5-303	現住所変更
土川 彰映 (S26採)	新宮鉱山 ^株 愛媛県宇摩郡新宮村	勤務先, 同住所変更
堤 信夫 (S26採)	新居浜精銅所 愛媛県新居浜市西原町	勤務先, 同住所変更
綱 泰助 (S19採)	目黒区上目黒 1-19-3	現住所地番変更
〔て〕		
照屋 勝晴 (S42資)	ナショナル交通 ^株 大阪市旭区今市町 3-44	勤務先変更 現住所変更
〔と〕		
土井 章 (S40資)	早大大学院 新宿区信濃町 27 佐野方	勤務先脱落, 現住所訂正
鳥畑 敏夫 (S20採)	下松市	久松市を下松市に訂正 転居先不明, 勤務先不変

〔な〕

直坂英夫(S25採)	佐賀閩製錬所 大分県北海郡佐賀閩町	勤務先, 同住所変更
中川慎治(S35鉱)	春日部市大字枝	現住所中, 抜を枝に訂正
中平栄一(S41資)	千葉県香取郡小見川町諏訪前 1398	現住所判明
中村清二(S37資)	豊島区高田 3-17-13	現住所判明
中山佳昭(S26鉱)		転居先不明
永井信逸(S18採)	横浜市戸塚区下飯田町 894-13	現住所変更
永井明(S35鉱)		勤務先転居先不明
長嶋吉男(S32鉱)		勤務先転居先不明
成瀬俊夫(S27鉱)		逝去

〔に〕

西田佑(S30鉱)	麴町アパート 2-13	現住所一部追加
-----------	-------------	---------

〔の〕

野呂瀬貞雄(S32鉱)	川口市芝南町 3333-3	現住所判明
-------------	---------------	-------

〔は〕

長谷川隆(S36鉱)	横浜市南区別所町 535 昭電社宅	現住所変更
幡谷功久(S26鉱)	福島県いわき市湯本辰ノ口 25	現住所判明
服部勝一(S22採)	足立区中川 2-8-13	現住所地番変更
花田賢司(S38資)	水戸市愛宕町 2210-3	現住所変更
林功二(S26採)	北多摩郡久留米町南沢 1712 古河社宅 B-311	現住所判明

〔ふ〕

福井健二郎(S41資)	豊島区雑司谷 3-7-3 鶯山荘	現住所地番変更
藤沼六郎(S19採)	新宿区西大久保 4-170 RF-41	現住所変更
麓恵次郎(S25採)	三菱金属鉱業㈱加工本部 千代田区大手町1-6 世田ヶ谷区野沢町 1-9-24 (421) 0815	勤務先, 同住所変更, 現住所変更

〔ほ〕

細谷和夫(S35鉱)	日野台 6801 二区ワ通り	現住所一部追加
堀昌雄(S41資)	釜石鉱業所 釜石市甲子町第一地割 80	勤務先同住所判明
本郷宏平(S15採)	三菱重工業㈱ 兵庫県相生市那波本町 13-32	勤務先名訂正 現住所脱落

〔ま〕

每熊輝記(S38資)	埼玉大学地学教室	勤務先変更
前田敏郎(S28鉱)	宇部市上宇部猿田公務員住宅 1号	現住所変更
前村正一(S21採)	大牟田市原山町 12	現住所判明
松井滋(S33鉱)	北海道苫前郡羽幌町栄町 101	現住所判明
松尾義延(S15採)		現住所に, 幼稚園横を追加
松岡繁夫(S20採)	高岳製作所甚目寺工場 名古屋市昭和区福原町 2-45	勤務先変更 現住所判明
松岡徹(S37資)	大田区池上 6-12-24	現住所地番変更
松木信一(S34鉱)	早稲田実業高校 新宿区鶴巻町 10	勤務先判明

松重正彦(S31鉦)	国領8-4-2-101	現住所一部訂正
松田弘(S30鉦)		勤務先, 現住所不明
〔み〕		
三宅暢之(S14採)		転居先不明, 勤務先不変
見戸一成(S22採)	芦屋市打出南宮町18B-302	現住所一部変更
峯尾宏(S40資)		転居先不明
峰村信昭(S21採)		転居先不明
宮沢正昭(S42資)	石油開発公団	勤務先名訂正
〔む〕		
村木弘昌(S27鉦)	堺市八田寺町45-1向ヶ丘第2団地92-102	現住所判明
村松賢三郎(S41資)	第2明美荘16号	現住所に追加
〔も〕		
森田博之(S30鉦)	町田市鶴川団地6-9-9-302号	現住所変更
〔や〕		
山県倫彦(S15採)	防府市余市町23-4	現住所番変更
山崎元典(S40資)		転居先不明, 勤務先不変
〔ゆ〕		
湯川治(S23採)		勤務先, 同住所不明
〔よ〕		
横井正温(S37資)	埼玉県戸田市上戸田1361東洋インク社宅224	現住所変更
吉岡進(S19採)	吉岡健, 東芝商事(株)関東支店	進を健に訂正, 勤務先
	千代田区神田須田町2-25-2(253)9111	同住所判明, 現住所番
	品川区大井5-3-12	変更
吉川雅三(S37資)	室蘭市輪西町柏木AP-406-に	現住所変更
吉田清臣(S17採)	甲陽建設工業(株) 港区赤坂葵町日鉦ビル	勤務先, 同住所判明,
	(582)2111 横浜市港北区岸根谷上647-2	現住所判明
	(045)491-5313	
吉永安伸(S37資)	岩手県遠野市上郷町細越八日市社宅	現住所判明
〔わ〕		
和田雄次(S19採)	神奈川県厚木市林920	現住所変更
渡辺誠一(S36鉦)	「渡辺昭」「渡辺俊雄」の間に挿入	氏名脱落
	住友金属工業(株) 千代田区丸ノ内1-8	勤務先判明

注: 庄武彦(S3)氏が逝去となっておりますが, 同氏は宇部にて御活躍中との情報がありました。昭和36年版名簿ではすでに逝去となっていましたので, そのまゝ記録してまいりましたが, 更に確認のうえ結果を発表いたします。

◇ 会員からの便り ◇

◎今後とも有意義な会にして下さい。期待し

ています。 十市 孝(S33鉦)

◎42年7月まで札幌中税務署副署長, 現在
東京国税局に勤務しております。(但し税金

をマケて頂く訳にはゆかぬと思います・係)

菊地秀臣(S23専)

◎塩沢先生の「鉄冶金50年」なつかしく、また感銘深く読ませて頂きました。

塚本勇三(S21採)

◎病気のため現在無職です。

滝口哲(S7採)

◎7年間休職派遣の「三菱レイソルズアルミニウム㈱」より復職し、三菱金属鋳業に勤務しております。麓恵次郎(S25採)

◎梅雨の候ますます御多祥のこととお慶び申し上げます。先日お邪魔の節は御高配にあずかりありがとうございました。会報等の発行については御多用中にも拘らず、大変お世話になっております。教室の皆様の御健斗をお祈りいたします。山県倫彦(S15採)

◎朝6時起床。学生時代の生活からは想像もできない早寝早起の健康的な毎日です。おかげで4Kgもふえました。(ケッコーなことです・係) 助野琢也(S43資)

◎昨年12月より秋田から当地(注・石油開発公団長岡鋳業所)へ来ています。入社して今年で4年目ののに、仕事を覚える為と称してまだ肉体労働をやらされています。("若い時の苦勞はかってもしろ"・係)その為文字を書くこと、本を読む能力が退化してしまいました。梅崎興一郎(S40資)

◎昨年11月頃より発病。やっとこの頃よくなりました。皆様によろしく。

小林一成(S16採)

◎現在青函トンネル竜飛建設所で地質関係の仕事に従事しています。20数年 GEOLOGY に余りにも遠ざかっていたため、再勉強しております。特に先進ボーリングの仕事なので折にふれ、諸先生に御教導頂く機会もあるかと存じます故、その節はよろしく御願いたします。小野宏平(S24専)

◎第3号受領いたしました。2年前から名古屋にきています(注・高岳製作所・甚目寺工場)。松岡繁夫(S20採)

◎北海道に日軽金の電解工場が建設されつつあります。在札2年、空気にもなれ快適な生活です。小出浩(S24採)

◎会報いつも有難うございます。楽しく、なつかしく拝見しております。今后共どうぞよろしく。細谷和夫(S35鉦)

◎昨年の総会出席の折、会費を払うと云ったにも拘らず、係がちがう、と断われた。したがって名簿も最近やっと入手した次第。大学もマンモス化すると斯くなる次第と相なりつものか。烈火の如く怒りて記之。

橘清三(S16採)

~~~~~ 非協力の弁

阿須奈郎

「〇〇区間は今回ワンマンカーになりました。御協力下さい」、何気なしに目にとまったバス広告の一文である。そういえば、こういったタグイの舌代に私達はしばしばお目こぼししている。曰く、「この道路は一方通行になりました、御協力下さい」、「納税に御協力下さい」、「定時発車に……」……云々。

そこでわがヘソ曲り氏は思うのである、一体どういう方法で協力したらよいか、と。

多分、彼のいわんとするところは、たとえばワンマンカー云々の場合は、釣銭のないよう準備して置き、そして納税云々では、とにかく文句をいわず払え、ということであろう。つまり、「斯々定まった。お前達は文句をいわず、いわれた通りにしない奴は非協力者である」とその舌代はウソブイているのである。

戦後いわゆる権威というもの表面的にはなくなったので、かつての「権威」達は彼等の権威をことさら強調したいが為、知恵をしぼって考えついた「名文句」ではある。

細かい金の持合せがなくワンマンカーに乗った時、「釣銭がないようにして呉れなければ困るね」と目をつり上げた運転手(いやこの場合正確には車掌かも知れない)にいわれ、思わず「スイマセン」とこちらが頭を下

げた経験、面倒臭そうに釣銭を投げ出された経験が、きっと誰しもある事だろう。税金また然り。協力期日が1日でも遅れば途端に延滞料の請求、協力した結果余分な納税額に対する返済金には、ピター文の金利もつけない。「どうも申訳ない、この車には車掌が居ませんもので」、「税金を多く取りすぎて本当に失礼、お互いに苦しいやりくりですが今後も完納をお願いします」と何故いえないのだろうか。だからこのような時、私はきまって思うのである、「冗談じゃない、こっちにはこっちの都合がアラ〜ナ」と。

協力させるにはそれ相応の理由を明示し、相手の納得がなければとてもできるものではない。オエラ方がしばしば口にする「キメの細かい配慮」が文字通り必要な筈である。相手の意向などお構いなく「命令」しようとする結果、さりとて矢鱈と命令できぬ御時勢ということで、彼等は「御協力」という文句を造り出した、と考えるのはヒガミだろうか。

話は一寸変るが、某新聞、某月某日の「読者の声」欄に次のような趣旨の外人観光客の投書があった。「あるハイウェイをドライブしていたら、ほとんど数百メートル置に落石注意の立札が目についた。最初のうちは確かに注意しながら走ったが、その中、相手に注意ばかりさせて置いて、道路管理の当事者は落石のないような処置をしているのかどうかを考えると、注意することが馬鹿らしくなった」。

然り、然り。当事者は兎に角「注意」を要求し、協力を求めているのだから、万一事故があっても、それはお前達が「協力しなかった」結果であって、当方に何等責任はない、といった意企が歴然としている。

「この度の投票には〇〇に何卒絶大なる御

協力を」、「犯人はこんな風な模様の包紙を持っていました。爆破魔逮捕に御協力下さい」等々、困った時には、必ず「弱き者」達を頼りにする輩が今や巷に満ちあふれている。そしてわがへソ曲り氏は、又こつつぶやくのである「クソ、協力なんか金輪際するものか」と。

~~~~~  
\*あ・ら・かると・A・L・A・CARTE\*  
~~~~~

◎広島・呉・中通局より7月24日付で会費500円を納入(振替)された方、貴殿の氏名を至急お知らせ下さい。なお会費納入済みにも拘らず、まだ名簿を受け取っていない方がありましたら、併せてお知らせ下さい。

◎岸本勝利(T12)氏、成瀬俊夫(S27)氏逝去されました。慎んで哀悼の意を表します。

◎本年度の資源工学会総会は、まだ役員会の決定がないのではっきりした日取は不明ですが、昨年と同様10月下旬又は11月上旬に開催の予定です。振って御参加下さいませよう御願ひ致します。

◎橋清三先輩より、大へんキツイお叱りを頂きました。昨年の総会当時は、まだ幹事連も諸事万端不なれでもありましたし、斯くいう私(総会時の責任者、岩崎孝、S28、資源工学科の万年助手)も、あまりの盛会に気も動転して連絡不行届の点があり、御迷惑をおかけしました事、深くお詫び致します。他山の石、以って銘している次第です。

◎昭和36年卒業生の鈴木英夫、渡辺誠一、両氏の氏名を名簿に記載洩れしてしまいました。失礼の程平に御容赦下さい。なお、その他お気付きの点がありましたら幹事迄御申越しく下さい。

◎“花すすき、寺あればこそ鉦がなる”

夾山

東京都新宿区西大久保4-17 電話(363)3211
資源工学会 早稲田大学理工学部資源工学科内 内線(仮)381
(振替番号)東京・143554 (非売品)